

戦争は突然起こるわけじゃない。 因果関係が爆発して起こるんだ。

第二次大戦後の世界各地の戦争・紛争を見てみよう！

国際連合を作って、世界中の人が「もう戦争はしない！」と心に決めたにも関わらず、戦争は無くならない。それはなぜか？君にこんな質問をしてみよう。

君の住んでいる村の領主はものすごく悪いヤツで、毎月君の給料の半分以上を税としてもらっていく。それだけでは飽き足らず、君は休日には領主の家の庭掃除、犬の散歩を命じられている。

「もうアイツのことを放ってはおけない！みんなで抗議しよう！」君は村の者を集めて領主に詰め寄った。すると領主は君らを半年間牢屋にぶち込んだ(；°(I)°) その間に仕事はクビになり、栄養失調で家族は病氣になってしまった、、、

さあ君はこの状況でどの道を選ぶ？

- ①領主を武力で制圧し、新しい政権を作る
- ②村を捨てて新しい土地へと移住する
- ③大人しく領主の言うことを聞いて我慢し続ける

戦争には「因果関係」がある。人は理由無しに戦争はしない。第二次世界大戦後に起こった戦争はこの選択肢のどれかを選んだ末に起こった戦争だと言えるんだ。

①の場合

アジア・アフリカの独立戦争

戦前植民地だった国々が、支配している国に対して独立戦争をしかけ、見事独立を勝ち取った。

1955年バンドン会議

植民地からの独立を目指すアジア・アフリカの29カ国が参加し、平和十原則が採択された。別名アジア・アフリカ会議。



1960年アフリカの年

アフリカ大陸で17カ国が独立を果たす。

